

## タスクベース指導法

1

## タスク中心教授法 Task-Based Language Teaching (TBLT)

2

### TBLTとは

- ・1990年代
- ・タスクの遂行を通して、学習を促進することで、正確さ、流暢さ、複雑さの3拍子揃ったコミュニケーション能力の習得を目指す(小柳・向山2018)
- ・第二言語習得研究に基づいている

3

### コミュニケーションタスクとは ニューナン

- ・言語形式ではなく、意味に重点を置く
- ・目標言語で相互作用を行うクラス活動
- ・「言語理解」、「言語操作」、「発話」を行う
- ・コミュニケーション活動として完結した物

Nunan, D (1989)

「Designing Tasks for the Communicative Classroom」

4

### ロングのタスクとは

自分、又は他人のために、もしくは自由意志で、又はある報酬のために行われる仕事のことを言う。したがって、タスクの例としては、フェンスにペンキを塗る、子供に服を着せる、用紙に書き込む、一足の靴を買う、飛行機の予約をする、図書館の本を借りる、運転テストを受ける、手紙をタイプする、患者の体重を計る、手具を仕分けする、ホテルの予約を取る、小切手を書く、通りの行き先を見つける、道を渡る人を助ける等があげられる。言い換えるなら、「タスク」の意味するものは、仕事で、遊びで、又はその間に日常生活で人々がやっている101の仕事のことである。

Long, 1985, P89; 「日本語教師のための新しい言語習得概論」 小柳かおる訳

5

### エリスのタスクの基準

- 1) 一番の焦点は「意味」に置かれている
- 2) 何かしらの「ギャップ」がある
- 3) 活動を遂行するために、主に自分自身の言語・非言語的資源に頼る
- 4) 言語使用以外に、明確に定められた成果がある

6

### TBLT 参考文献

- ・「第二言語習得の普遍性と個性—学習メカニズム・個人差から教授法へ」 小柳かおる 向山陽子 くろしお出版
- ・「日本語教師のための新しい言語習得概論」  
小柳かおる スリーエーネットワーク
- ・「Task-Based Language Teaching」Rod Ellis et al.(Cambridge Applied Linguistics)

7

### CEFL

Common European Framework of  
Reference for Languages

8

### CEFLとは

- ・外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠
- ・外国語の運用能力を同一の基準で測ることが出来る国際標準
- ・行動中心アプローチに基づき、その言語を使って「具体的に何が  
できるか」という形で言語力を表す「can-do descriptor」を用いる。
- ・「複言語・複文化主義」や「相互理解」などの理念を背景としている。

「日本語教師のためのCEFR」くろしお出版

9

### CEFLのコミュニケーション能力とは

- 1) 言語的能力  
語彙、文法、意味論的要素、発音、正書法、正音法
- 2) 社会言語学的能力  
状況や相手に合わせて適切に言語を使いわけ  
る能力  
待遇表現など
- 3) 語用論的能力  
ディスコース能力 談話を組み立てたりコントロールする  
能力  
機能的な能力

10

### CEFLのコミュニケーション活動

- 1) 産出活動 話す 書くなど
- 2) 受容活動 聞く 読むなど
- 3) 相互行為活動 会話 手紙のやりとりなど
- 4) 仲介活動 通訳 翻訳など

11

### 日本語教育の参照枠

12

### 日本語教育の参照枠とは

- CEFRを参考に、日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な日本語教育を継続的に受けられるようにするため、日本語教育に係るすべての者が参照できる日本語学習、教授、評価のための枠組み
  - 言語教育間の3つの柱
    1. 日本語学習者を社会的存在として捉える
    2. 言語を使って「できること」に注目する
    3. 多様な日本語使用を尊重する
- 『日本語教育の参照枠報告』(2021/R.3)

13

### JFスタンダード

14

### JF日本語教育スタンダードとは

- CEFRをベースにJFが開発した日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツール。
- 課題遂行能力と異文化理解能力を育成する実践をサポートし、日本語を通じた相互理解を目指す。
- JF日本語教育スタンダードでは、CEFRの考え方に準じて、言語によるコミュニケーションを言語能力と言語活動の関係から捉え、日本語の熟達度を6つのレベルに分けている。

JFスタンダードとは | JF日本語教育スタンダード

15

### 6つのレベルとは

- A 基礎段階の言語使用者
  - A1: 入門(超初級)、A2: 初級
- B 自立した言語使用者
  - B1: 中級、B2: 中上級
- C 熟達した言語使用者
  - C1: 上級、C2: 超上級(母語話者レベル)

「can do statement」は  
「国際交流基金」>「みんなのcan-doサイト」

Can-doとは | みんなのCan-doサイト

16

### Can-do リスト

JFCan-do  
[202305\\_JF\\_Cando\\_Category\\_list.pdf](#)

生活Can-do  
[202310\\_seikatsu\\_cando\\_list\\_all.pdf](#)

17

### できる日本語ひろば

- 『できる日本語』の概要 | できる日本語ひろば 運営: できる日本語教材開発・普及プロジェクト

18

## 「できる日本語」と参照枠

『できる日本語』は、21世紀に入って数年後、「新しい日本語教育」をめざして、作成に向けての話し合いが始まりました。それは、アルクからの声かけによるものでした。OPIのワークショップを主催するアルクとしては、当時「初めに文型ありき」の教材を齎々進めているような教育現場に危機感を覚え、何とか「**プロフィシエンシーを重視した日本語教育**」にシフトしたいと考えたのです。

こうしてOPIの考えに基づき、同時にCEFRも参考に作成されたのが『できる日本語』です。内部的には、関係性を記した資料がありましたが、公開していませんでした。この度「日本語教育の参照枠/OPI/JLPT」との関係性について、サイトにしてお知らせすることとしました。どうぞ参考になさってください。

• PDF → ★『できる日本語』と参照枠 (2022.6)

19

## 「できる日本語初中級」レベル

『できる日本語』教材開発プロジェクト

2022年6月版

『できる日本語』の到達目標と「日本語教育の参照枠」

※(参照枠)には、C1レベルまでありますが、表には記載していません。

| 日本語教育機関2年コースにおける到達目標 |           |           |           |        |
|----------------------|-----------|-----------|-----------|--------|
| A1                   | A2        | B1        | B2        | C1     |
| 基礎段階の言語使用者           | 自立した言語使用者 | 熟達した言語使用者 |           |        |
| できる日本語初級             | できる日本語初中級 | できる日本語中級  | 上級 I & II | 上級 III |

＊『できる日本語』に関しては、それぞれ教材の到達目標を示しています（1年目のコース）。  
 ＊「初中級」は、一般的な言い方では「初級2／初級後半」レベルとなります。  
 ＊『できる日本語』初級、初中級、中級の学習時間数の目安は、以下のとおりです（本書2ページに記載）。  
 初級＝150時間（2.5か月） 初中級＝200時間（3.5か月） 中級＝350時間（6か月）

20

## 「できる日本語」特徴

- ・行動目標 (Can-do-statements) が明確である。
- ・場面、状況を重視し、さらに言語的知識も大切にしている。
- ・学習者にとって必然性のあるタスクである。
- ・タスク先行 (まずチャレンジ!) で進める。
- ・文脈化を大切にしている。
- ・「固まりで話すこと」を重視している。
- ・スパイラル展開を重視している。
- ・「他者への配慮」のある談話となっている。

21

### ■『できる日本語』でどんな授業をめざすのか？

「自分のこと／自分の考えを伝える力」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけることを目的に作成されました。日本語によるコミュニケーションの中でも「対話力」に重きをおき、社会・人となつたことをめざしています。

- ① 教室のコミュニティ化を図り、外とつながる授業
- ② 教室の中で、多方向的な「多様な対話」が生まれる授業
- ③ 達成感が実感できる授業
- ④ 学習者が自律的に学びつづける授業

学習者も教師も「わくわくする授業」をめざして作りました！！

22

## 「できる日本語」参考文献

### ★時間があったら読んでいただきたい論文

- ◆堀田和子 (2008) 「なぜ今プロフィシエンシーを考えるのか—教育現場の視点から」 堀田和子・堀田和子・迫田久美子編『プロフィシエンシーを育てる—一貫した日本語能力をめざして』凡人社、pp.2-17

### ★参考になるサイト

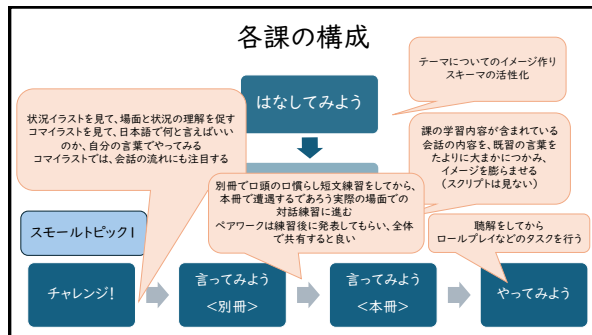
- ◆アタラス日本語教育研究所  
<http://www.ataras.jp/>  
 「できる日本語」特設ページがあります。
- ◆『できる日本語』アルク特設ページ  
<http://www.alk.co.jp/jpn/dok/jpnshougou/>  
 教科書の特徴、採用校の声、学習者の声など、いろいろな情報が載っています。
- ◆アルク ダウンロードセンター  
<http://www.alk.co.jp/dl/>  
 「できる日本語」の英語、中国語、韓国語、ベトナム語の翻訳 (Can-do-statement とことばページ) がダウンロードできます。
- ◆「教科書について考えてみませんか?」『月刊日本語』連載記事  
<http://www.alkshougou.com/jp/2021/>

23

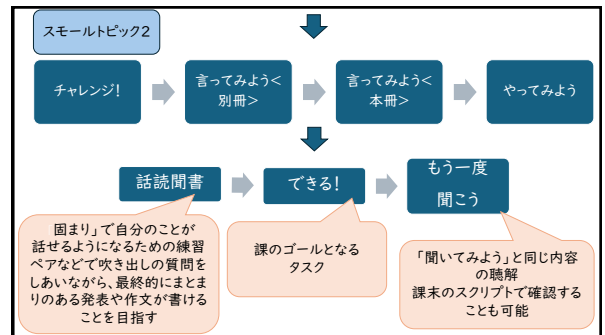
## 「できる日本語」副教材



24



25



26

**「できる日本語」You Tube 動画**

★ 説明ビデオ&授業ビデオ YouTubeプレイリスト  
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLfdqKQuqZTlr-XEPId2seC3jZUiwWRk3o>  
 ※「授業の進め方動画」は、「初級:8本(110分)」と  
 「中級:7本(115分)」の2種類の動画あります。

27

**「できる日本語中級」授業の進め方動画**

「できる日本語」中級進め方①「はなしてみよう」(1:30~)3分30秒  
<https://www.youtube.com/watch?v=BImkoAlZ77Q&list=PLfdqKQuqZTlr-XEPId2seC3jZUiwWRk3o&index=28>

★タイトルの確認  
 イラストを見ながらその課のテーマについてイメージを作っていく  
 タイトルに関係がある経験を教師が質問しながら話してもらう  
 それまでに習った言葉や知っている表現を使って自由に話す  
 学習目標を確認する

28

「できる日本語中級」授業の進め方②「チャレンジ」(17分20秒)  
[https://www.youtube.com/watch?v=Prilzgw\\_Gji&list=PLfdqKQuqZTlr-XEPId2seC3jZUiwWRk3o&index=29](https://www.youtube.com/watch?v=Prilzgw_Gji&list=PLfdqKQuqZTlr-XEPId2seC3jZUiwWRk3o&index=29)

タスク1「見つけた!」 掲示板で見つけたポスターの内容をつかむ

★チャレンジ 速読読解  
 Qを先に確認してから、ポスターを読んで、Qの答えを探していく  
 次にポスターをみんなで見ながら精読読解しながら、内容を把握していく  
 テーマの交流会の経験を自由に話す。

★使ってみよう! 新しい表現をテキストやプリントで確認していく

★イベントのお知らせでよく見ることは  
 ワークブックで使い方を確認する

★やってみよう 本物のチラシを見ながらペアで内容を確認する

29

「できる日本語中級」授業の進め方③(25分38秒)  
<https://www.youtube.com/watch?v=28JFx4bBy4Y&list=PLfdqKQuqZTlr-XEPId2seC3jZUiwWRk3o&index=30>

タスク2「こんなときどうする?」

★チャレンジ 「友達を交流イベントに誘ってください」  
 ロールカードを見てロールプレイを試みる  
 自分たちはどうだったか?他のペアはどうだったか?  
 自分たちでFBしてみる。足りないところを確認する

★使ってみよう! CDのロールプレイを聞く  
 表現のスク립トを読みながら、読みて内容を確認する

★友達を誘うときに使う表現  
 プリントを使って、新しい表現を理解して、使ってみる  
 テキストの例文で確認する  
 ワークブックで確認する

★やってみよう 本物のチラシを見ながら、見えない人を誘うタスクをする  
 発表後、自分たちでF.Bする。気づかなかったところを教師がF.Bする。

30